資料2-1

戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

# 令和2年度SIP第2期 課題評価結果

令和3年2月25日

ガバニングボード決定

# 令和２年度　SIP 第２期課題評価結果

| 課題名 | スマート物流サービス |
|---|---|
| PD 名（※敬称略） | 田中　従雅 |

## Ⅰ．総合評価結果

研究開発内容の絞り込みとともに、研究開発体制を見直した結果、課題目標やテーマ間のシナジーが十分発揮されるようになっており、成果の進捗が明確である。

実証のみで終わることの無いよう、具体的な運用体制やビジネスモデルの検討を行い、実用化に向けた体制を強化していく必要がある。また、グローバルベンチマーク調査を引き続き実施し、不足点を洗い出すために活用することを期待する。

| 総合評価 | A |
|---|---|

## Ⅱ．主な指摘事項

**【肯定的評価】**

●開発当初の計画策定に難航したものの、十分な検討期間を設けた結果、目的、推進内容が明瞭となっている。

●実証実験によって、共同物流などの具体的なメリットが明らかとなった。今後、今回の実証で得られた成果を踏まえ、関係事業者が社会実装を進めることを期待する。

**【改善すべき点】**

●実証実験で終わらないように社会実装の実現に向けては実事業者を巻き込んだ運用体制の整備やデータ連携･情報共有のビジネスモデル（インセンティブ）の設計などの検討が必要となる。

●各業界別データ基盤が独立し、個別最適に陥らないように、横串の連携機能の早期実現が不可欠である。ただし、横串の基盤では、多種多様な物流情報等をどのように整理し、変換･連携させるのか、実際の社会実装の際の使用に耐える設計になっているかなど、実用性の観点を明らかにすべきである。その際、

業界個別の動きもあるため、留意する必要がある。

●共通データ基盤の開発については、ガバナンスポリシー、運用ルールなどの具体化が明確ではなく、実用的に機能するのか不明確である。並行する社会実装検討会や標準化検討の結果、業界別データ基盤への反映を踏まえ、ポリシー・ルールを早期に策定する必要がある。また、デジタル庁設立の動きなど国のデータ戦略との比較検討を実施しながらガラパゴス化しないよう注意して進める必要がある。

●個々の要素技術ではなく、本プログラムで開発される物流サービスをベンチマーキングし、目指す物流サービスの特徴を示す必要がある。また、全ての比較項目で優位性を示すのでは無く、課題抽出のためにベンチマークを活用する必要がある。

●諸外国の取組も加速しているため、ピアレビューでの指摘も踏まえつつ、来年度もグローバルベンチマーク調査を行い、優位性を維持する取組を続ける必要がある。その際、国際比較に関し、本研究開発が世界の中でどのレベルであるかの具体的な記載をする必要がある。

**【ピアレビューについて】**

ピアレビューについては優れており、内容が充実している。全体課題並びに全てのサブテーマにきめ細かにコメントが示されている。今後も引き続き充実したピアレビューを期待する。

（以　上）

参考 1

**図 1：第 2 期課題評価のランク付け**

| 評価 | 標語 |
|---|---|
| S | 極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。 |
| AA | 適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。 |
| A＋ | 適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。 |
| A | 目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、当初予定どおりの成果が得られている。 |
| A－ | 目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、予定を下回る成果となっている。 |
| B＋ | 目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、予定を大幅に下回る成果となっている。 |
| B | 目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。 |

**図 2：次年度予算への反映**[2]

| 評価 | 前年度当初予算比 |
|---|---|
| S | ＋50%以下 |
| AA | ＋30%以下 |
| A＋ | ＋10%以下 |
| A | 0%以下 |
| A－ | ▲10%以下 |
| B＋ | ▲30%以下 |
| B | 事業中止を検討 |

（出所）第 86 回戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）ガバニングボード（平成 30 年 8 月 2 日）決定（抜粋）

[2] なお、高い評価を受けた場合でも、予算が十分確保できない場合には、増額できない場合があることに留意。

参考 2

## SIP 第 2 期課題評価 WG 委員名簿

◎座長

須藤 亮　　内閣府政策参与・SIP プログラム統括

〇委員

小豆畑 茂　元　株式会社日立製作所　フェロー

五十嵐 仁一 JX リサーチ株式会社 代表取締役社長

江崎　浩　東京大学　大学院　情報理工学系研究科　教授

岡崎　健　東京工業大学　科学技術創成研究院　特命教授

小栗 久典　弁護士法人内田・鮫島法律事務所 代表パートナー弁護士

君嶋 祐子　慶應義塾大学　法学部・大学院法学研究科　教授

小宮山 宏　株式会社三菱総合研究所　理事長

小向 太郎　中央大学 国際情報学部 教授

佐々木 良一 東京電機大学 研究推進社会連携センター 顧問・客員教授

白井 俊明　元 横河電機株式会社 フェロー

竹中 章二　池上通信機株式会社 技術顧問

林 いづみ　桜坂法律事務所 弁護士

藤野　陽三　城西大学　学長

吉本 陽子　三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社　経済政策部 主席研究員

（敬称略、五十音順）

参考 3

## 評価 WG の審議実績

■令和 3 年 1 月 18 日　第 1 回会合

- 「革新的深海資源調査技術」
- 「IoE 社会のエネルギーシステム」
- 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」

■令和 3 年 1 月 20 日　第 2 回会合

- 「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」
- 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」
- 「スマート物流サービス」

■令和 3 年 1 月 22 日　第 3 回会合

- 「統合型材料開発システムによるマテリアル革命」
- 「光･量子を活用した Society5.0 実現化技術」
- 「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」

■令和 3 年 1 月 25 日　第 4 回会合

- 「IoT 社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」
- 「自動運転（システムとサービスの拡張）」
- 「ビッグデータ・AI を活用したサイバー空間基盤技術」

■令和 3 年 2 月 1 日　第 5 回会合

- 最終評価とりまとめ